

# 有限体上の 2 次形式に付随する指標和について

赤坂 健介 (Kensuke Akasaka)\*

## 概要

$q = p^m$  ( $p$ : 奇素数) とする. 有限体  $\mathbb{F}_q$  に成分をもつ  $n$  次対称行列と  $\mathbb{F}_q^\times$  の指標  $\chi$  に対して,

$$h(A, \chi) = \sum_{U \in SL_n(\mathbb{F}_q)} \chi(\text{tr}(A[U]))$$

と定義する. これはジューゲル・カスプ形式に付随し, いわゆる *Twisted Koecher – Maass* 級数に応用されている.  $m = 1$  のとき,  $h(A, \chi)$  は H.Katsurada[2] によって求められている. 本講演では  $m$  が一般のときについて  $h(A, \chi)$  を [2] とは別の方法で求める.

## 1 導入

可換環  $R$  に対して,  $R$  の単数群を  $R^\times$  とする.

$$R^\times = \{a \in R \mid \exists b \in R \text{ s.t. } ab = 1\}$$

特に  $R$  が体のとき,  $R^\times = \{a \in R \mid a \neq 0\}$  である.

$$S_n(R) := \{A \in M_n(R) \mid {}^t A = A\}$$
$$L_n(R) := \left\{ A = (a_{ij})_{n \times n} \in M_n(R) \mid a_{ij} \in \frac{1}{2}\mathbb{Z}, a_{ii} \in \mathbb{Z}, a_{ij} = a_{ji} \right\}$$

と定義する.

$\mathbb{F}_q^\times = \langle a \rangle$  とする.  $q-1$  のとき,  $\mathbb{F}_q^\times$  の指標  $\chi_{q,l}$  を  $\chi_{q,l}(a) = \zeta_l$  と定義する. ただし,  $\zeta_l = \exp(\frac{2\pi i l}{q-1})$  とする.

$q = p^m$  ( $p$ : 奇素数) とする. 有限体  $\mathbb{F}_q$  に成分をもつ  $n$  次対称行列  $A$  と  $\mathbb{F}_q^\times$  の指標  $\chi$  に対して,

$$h(A, \chi) = \sum_{U \in SL_n(\mathbb{F}_q)} \chi(\text{tr}(A[U]))$$

と定義する.  $\text{tr}$  とはトレースを指す. また  $A[U] = {}^t UAU$  である. ただし,  $\chi(0) = 0$  とおく.  $\chi_0$  に対して,  $\chi_0(a) = \zeta_{q-1}$  と定義する.

\* 〒050-8585 北海道室蘭市水元町 2 7-1 室蘭工業大学大学院 工学研究科 情報電子工学系専攻 数理科学研究室  
email:16043003@mmm.muroran-it.ac.jp

## 2 主結果

$q = p^m$  の  $m$  が一般のときについての  $h(A, \chi)$  の明示公式を述べる.

### 主定理 1

$\chi \neq 1$ ,  $n > 2$  とする.

(1)  $n$  を奇数とし,  $\gcd(q-1, n) = l$  とする. また  $n$  が 3 のとき,  $\text{tr}(E) = 0$ ,  $\det E = 1$  とする. ただし  $\chi^2$  が単位指標でないとする.

(i)  $\chi = \chi_0^s$  かつ  $s \not\equiv 0 \pmod{l}$  のとき,

$$h(A, \chi) = 0.$$

(ii)  $\chi = \chi_0^{ls}$  とする.  $n = lt$  とすると  $\gcd(q-1, t) = 1$  なので,  $ut + v(q-1) = 1$  となる  $u, v$  が存在する.  $\bar{\chi} = \chi_0^{su}$  とおくと  $\bar{\chi}^n = \chi$  となる.  $\bar{\chi}\chi_{q,l}^j = \bar{\chi}^{(j)}$  とおく. このとき,

$$h(A, \chi) = \gamma_{n,q} \sum_{j=0}^{l-1} \bar{\chi}^{(j)} (4 \det A) \sum_{E \in S_{n-3}(\mathbb{F}_q)} \sum_{\substack{w \in \mathbb{F}_q \\ w \neq 0, 1 - \text{tr}(E)}} \bar{\chi}^{(j)2}(w) \bar{\chi}^{(j)}(1-w-\text{tr}(E)) \left( \bar{\chi}^{(j)} \chi_{q,2} \right) (\det E).$$

(2)  $n \geq 4$  の偶数とし  $\gcd(q-1, n) = l$  とする. また  $n = 4$  のとき,  $\text{tr}(E) = 0$ ,  $\det E = 1$  とする.

(i)  $\chi = \chi_0^s$  かつ  $s \not\equiv 0 \pmod{l}$  のとき,

$$h(A, \chi) = 0.$$

(ii)  $\chi = \chi_0^{ls}$  とする.  $n = lt$  とすると  $\gcd(q-1, t) = 1$  なので,  $ut + v(q-1) = 1$  となる  $u, v$  が存在する.  $\bar{\chi} = \chi_0^{su}$  とおくと  $\bar{\chi}^n = \chi$  となる.  $\bar{\chi}\chi_{q,l}^j = \bar{\chi}^{(j)}$  とおく. このとき,

$$h(A, \chi) = \gamma_{n,q} \sum_{j=0}^{l-1} \bar{\chi}^{(j)} (4^2 \det A) \sum_{E \in S_{n-4}(\mathbb{F}_q)} \sum_{\substack{w \in \mathbb{F}_q \\ w \neq 0, 1 - \text{tr}(E)}} \bar{\chi}^{(j)2}(w) \bar{\chi}^{(j)2}(1-w-\text{tr}(E)) \bar{\chi}^{(j)} (\det E).$$

(3)  $\det A = 0$  のとき,

$$h(A, \chi) = 0.$$

$\gamma_{n,q}$  は  $n, q$  によって明示的に定まる定数である. ただし,  $\bar{\chi}^*(*) = \overline{\chi^*(*)}$  である.

## 参考文献

- [1] H.Katsurada and Y.Mizuno. Linear dependence of certain L-values of half-integral weight modular forms, J.London Math. 85 (2012) 455-471
- [2] H.Katsurada. Explicit formulas for the twisted Koecher-Maaß series of the Duke-Imamoglu-Ikeda lift and their applications. Math.Z. 276 (2014) 1049-1075
- [3] K.Hasiguchi. 2 次形式に付随する指標和について. 室蘭工業大学大学院数理システム専攻 (2013)
- [4] Y.Kitaoka. Arithmetic of quadratic forms. Cambridge University Press (1993)